

## 自己認識を深めることを主体性の育ちに

「ぼくの電動車いす」の実践から

野津 保

### 1 ぼくも電動車いすに乗ってみたい

病棟と学校をバギーで押してもらって登下校しているAは、病弱養護学校小学部の5年生である。生活を共にしている病棟の中高生は全員が電動車いすで移動している。教室の友だちは自力歩行できる友だちである。その中にあって、Aだけがバギーを押してもらって移動していた。

A：ぼくも電動車いすに早く乗ってみたい。だって、○くんも□くんも電動車いすだもん。

私：電動車いすがいいの？ 電動車いすのどこがいいの？

A：だって、自分の好きな所に行けるもん。

ときどきこんな言葉を交わすことがあった。

そのAも電動車いすに移行する時期がやってきた。5年生の8月にドクターからその認可がおり、年度末に完成する予定で新しい電動車いすの製作が進むことになった。

誰かに押してもらって移動していたAにとっては、自分の意思で自由に移動できる電動車いすに乗り替えていくことは大きな転機である。そこで、電動車いすの製作過程に沿いながら、自分の身体や電動車いすの機能についての学習を設定することにした。学習を通して、自分の身体や自分と周りの世

界との結びつきについて「見つめる目」を深めていってほしいと期待した。

学習のねらいを3点に設定した。

- ①現在使用しているバギーの機能と関連づけながら、自分自身の身体の動きについてその特徴がわかる。
- ②現在使用しているバギーの機能を振り返り、新しい電動車いすに備えてほしい機能について考える。
- ③電動車いすができるまでに、製作にかかわってくれる人たちについて調べ、多くの人との結びつきの中で電動車いすができていくことがわかる。

### 2 今、使っているバギーにはどんな工夫があるかなあ

まずは、現在のバギーに施されているさまざまな工夫について調べてみた。

Aをバギーからおろす。毎日乗っているバギーを改めて見つめ直していくことから学習を始めた。「まくら（ヘッドレスト）がある。はずせるようにできている」「座るところ（座面）にへこみがある。座るところは布でできている」「背もたれにまるみがある」等、形状や材質や機能を調べていった。「座るところが取り外せるようになっている。家に帰った時は、はずしてそのまま畳の上において、テレビなんかを見ているんだよ」と生活場面での使い方も含めて発表した。

一緒に学習している友だちは「背もたれの右側と左側とではでっぱり（ふくらみ）がちがう」「やわらかい布でできている。さわるとふさふさしている」と実際に手で確かめた感触を発表していた（資料1。その後、友だちは心臓疾患の手術のため長期欠席となり、A単独の学習となった）。

### 3 ぼくの身体を見つめてみよう、

「なぜ、そのような工夫がなされているか」バギーの工夫と関連づけながら自分の身体の動きについて調べていくことにした。